

岡山県感染症週報 2019年第24週 (6月10日～6月16日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令しました (6月17日)

◆2019年 第24週 (6/10～6/16) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第22週	2類感染症	結核	2名 (50代 女 1名、60代 男 1名)
第23週	2類感染症	結核	1名 (20代 男)
	5類感染症	ウイルス性肝炎	1名 (50代 男)
		梅毒	1名 (20代 女)
		百日咳	6名 (小学生 男 1名・女 3名、中学生 男 1名、50代 女 1名)
第24週	2類感染症	結核	4名 (50代 女 1名、70代 男 1名・女 1名、80代 男 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6名 (O26:20代 女 1名、O111:20代 男 1名、O157:幼児 女 2名、30代 女 2名)
	4類感染症	つつが虫病	1名 (80代 男)
	5類感染症	ウイルス性肝炎	1名 (80代 男)
		百日咳	5名 (小学生 男 1名・女 3名、高校生 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○手足口病は、県全体で 497 名 (定点あたり 6.15 → 9.20 人) の報告があり、前週から増加しました。

○ヘルパンギーナは、県全体で 119 名 (定点あたり 1.52 → 2.20 人) の報告があり、前週から増加しました。

【第25週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 3名 (O157:幼児 男 1名、小学生 女 1名、40代 男 1名) の発生がありました (6月17日～20日)。

○つつが虫病 1名 (30代 男) の発生がありました (6月17日)。

- 腸管出血性大腸菌感染症**は、第24週に6名の報告があり、2019年第24週までの累計報告数は21名となりました。例年、同感染症は、6月中旬から8月にかけて発生が増える傾向があることから、岡山県は6月17日に「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
- つつが虫病**は、2019年第24週に1名の報告がありました。この感染症は、つつが虫病リケッチア という細菌によって発症する病気です。この病原体を保有する野外の小型のダニの一種であるツツガムシの幼虫に咬まれることにより感染します。ダニに咬まれないための予防対策等についてはコラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」をご覧ください。
- 風しん**は、2019年第24週までに3名 (第3週、第4週、第6週各1名) の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。全国の発生状況など詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
- 手足口病**は、県全体で497名 (定点あたり6.15 → 9.20人) の報告があり、前週から増加しました。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、岡山市 (16.79人)、倉敷市 (10.55人)、備前地域 (8.60人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域で発生レベル3となり、岡山市および倉敷市で発生レベル3が継続しています。年齢別では、1歳が44%を占めています。全国の第23週 (6/3～6/9) の発生状況は、定点あたり報告数が2.79人であり、都道府県別では、鹿児島県 (14.02人)、福岡県 (11.73人) など九州地方を中心に西日本で流行しています。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。
- ヘルパンギーナ**は、県全体で119名 (定点あたり1.52 → 2.20人) の報告があり、前週から増加しました。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、岡山市 (6.21人)、倉敷市 (1.55人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市では発生レベル3となっています。この感染症は、例年7～8月頃が流行のピークとなります。県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めましょう。

手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています！

- ◆ どちらの感染症も、特別な治療法はなく、対症療法が中心となります。口の中に水疱ができ食事を取りにくいいため、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。
- ◆ 保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがいや手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防に努めましょう。
- ◆ 通常、予後は良好な感染症ですが、まれに重症化することがあります。お子さんの状態に注意し、症状が悪化した場合は早めに医療機関を受診しましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★★★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ➡：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ➡：減少 ➡：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

症状等についてはこちらをご覧ください。

⇒ [『風しんについて』\(厚生労働省\)](#)

●全国の発生状況

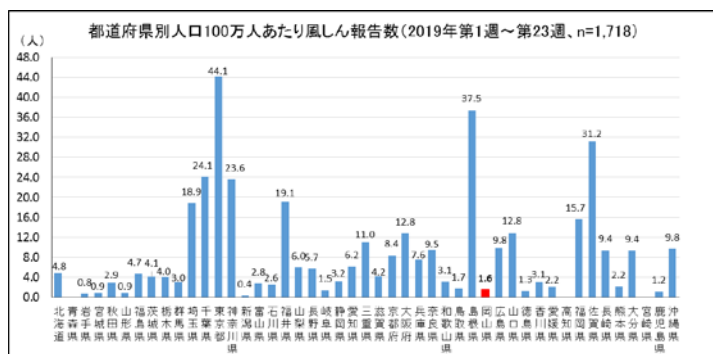
風しんは、2018年に全国的に流行しました(2018年の全国の風しん届出数：2,937名。2015～2017年の3年間では年間93～163名)。

2019年に入ってから、全国では第1週から第23週の風しん累積患者報告数は1,718名となり、第22週の1,658名から60名増加しました。

2019年第1週から第23週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で13.5人となり、東京都が44.1人で最も多く、次いで島根県37.5人、佐賀県31.2人、千葉県24.1人、神奈川県23.6人と続いています。患者の9割以上が成人で、男性が女性の3.9倍多く報告されており、特に30～40代の男性に多くなっています(男性患者全体の約6割)。

<中国・四国地方の状況>

- ・2018年累積報告数(カッコ内は人口100万人あたりの患者報告数)
 岡山県：29名(15.1人)、広島県：28名(9.8人)、山口県：24名(17.1人)、愛媛県：7名(5.1人)



風しん累積報告数の推移
(全国、2012年～2019年第23週)

・2019年第1週～第24週（速報値）累積報告数

岡山県：3名（1.6人）、広島県：28名（9.8人）、山口県：18名（12.8人）、島根県：29名【前週+3】（41.8人）、香川県：3名（3.1人）、愛媛県：3名（2.2人）

●先天性風しん症候群（CRS）とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に**先天性風しん症候群（CRS）**と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

全国では、2019年第4週、第17週および第24週に、各1名ずつの先天性風しん症候群の発生報告がありました。

風しんの予防について

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、風しんの抗体保有率が低い30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

風しん抗体検査（無料）を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます（岡山県健康推進課）](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い**1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性**に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる制度が、全国的に始まりました（2019年から2021年度末までの約3年間）。

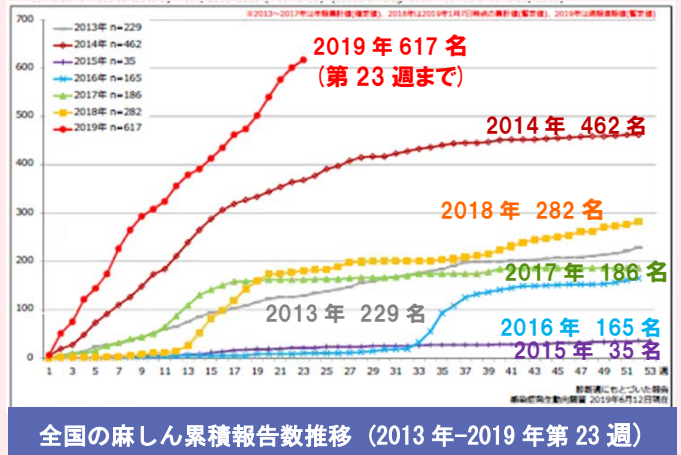
詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。お住まいの市町村予防接種担当課にお問い合わせください。

→ [風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)

注意喚起情報～麻疹感染拡大中!

●全国的に麻疹（はしか）の感染患者が確認されています!

現在、大阪府（143名）や東京都（100名）、神奈川県（75名）の他、中国地方でも広島県（15名）で感染者が増加しており（6月16日まで）、全国的に感染が拡大しています。なお2019年第23週までで、全国では617名の患者が報告され、2018年1年間の報告数の2倍を超えています。



●「麻疹（はしか）」とは

麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性疾患です。感染経路は、空気・飛沫・接触感染など様々で、その感染力は非常に強く、1人の発症者から12～14人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。手洗い、マスクのみでは予防はできません。

●症状

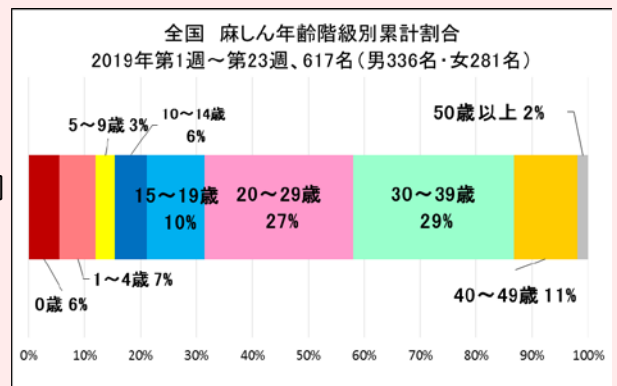
感染すると10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。38℃前後の発熱（2～4日）後、高熱（多くは39.5℃以上）と発疹が出現します。通常は7～10日後には回復しますが、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります（麻疹の二大死因は肺炎と脳炎です）。また、妊婦が感染すると、母体が重症化する恐れがあり、流産や早産を引き起こす可能性もあります。なお、麻疹の感染が疑われる場合は、感染拡大防止のため、受診前に医療機関に連絡をし、その指示に従ってください。

●麻疹はワクチンで予防できます!

麻疹は、2回のワクチン接種でほぼ確実な免疫を得ることができるとされています。

1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

加えて、麻疹感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、



今一度ご確認ください。この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

[麻疹について（厚生労働省）](#)

[麻疹とは（国立感染症研究所）](#)

[「妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意」（日本産婦人科医学会）](#)

医療関係者の方へ⇒ [「医療機関での麻疹対応ガイドライン（第七版）」（国立感染症研究所）](#)

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、ツツガムシやマダニなどが知られています。

これらのダニの中には、つつが虫病や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱などを引き起こす病原体を保有しているものもあります。

春から秋(3～11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。

野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



吸血前の
フタゲチマダニ♀

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディートやイカリジンを含むもの)を噴霧しましょう。
(虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。
入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎容易に取り除くことができる場合(2、3日以内)は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合(数日以降)は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は医療機関を受診する際に持参してください。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [ツツガムシ病とは](#) (国立感染症研究所)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#) (厚生労働省)
- ⇒ [日本紅斑熱とは](#) (国立感染症研究所)
- ⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立感染症研究所)



ヤマアラシチマダニ

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。次の3原則に心がけ、予防に努めましょう。



➤ 「清潔」 (菌をつけない)

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。©岡山県「ももっち」
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」 (菌を増やさない)

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10°C以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4°C以下で保存するよう努めましょう。)

➤ 「加熱」 (菌をやっつける)

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部まで十分に火を通し、生食は避けましょう。

保健所別報告患者数 2019年 24週(定点把握)

(2019/06/10～2019/06/16)

2019年6月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	0.60
RSウイルス感染症	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	37	0.69	23	1.64	4	0.36	-	-	1	0.14	2	0.50	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	96	1.78	23	1.64	33	3.00	2	0.20	14	2.00	5	1.25	8	4.00	11	1.83
感染性胃腸炎	304	5.63	134	9.57	56	5.09	48	4.80	17	2.43	19	4.75	6	3.00	24	4.00
水痘	9	0.17	7	0.50	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	497	9.20	235	16.79	116	10.55	86	8.60	30	4.29	4	1.00	6	3.00	20	3.33
伝染性紅斑	6	0.11	4	0.29	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	0.26	4	0.29	2	0.18	1	0.10	5	0.71	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	119	2.20	87	6.21	17	1.55	8	0.80	4	0.57	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	4	0.80	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 24週(発生レベル設定疾患)

(2019/06/10～2019/06/16)

2019年6月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	6	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	0.60
咽頭結膜熱	37	0.69	23	1.64	4	0.36	-	-	1	0.14	2	0.50	-	-	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	96	1.78	23	1.64	33	3.00	2	0.20	14	2.00	5	1.25	8	4.00	11	1.83
感染性胃腸炎	304	5.63	134	9.57	56	5.09	48	4.80	17	2.43	19	4.75	6	3.00	24	4.00
水痘	9	0.17	7	0.50	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	497	9.20	235	16.79	116	10.55	86	8.60	30	4.29	4	1.00	6	3.00	20	3.33
伝染性紅斑	6	0.11	4	0.29	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	119	2.20	87	6.21	17	1.55	8	0.80	4	0.57	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	6	0.11	3	0.21	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	4	0.80	2	0.50	2	2.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第24週 2019/06/10～2019/06/16)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	37	-	8	9	7	3	3	4	2	-	-	1	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	96	-	-	2	8	9	15	18	9	9	10	8	6	1	1
感染性胃腸炎	304	2	19	55	36	25	23	20	14	13	6	15	37	4	35
水痘	9	-	1	-	1	2	1	2	1	1	-	-	-	-	
手足口病	497	2	61	221	110	51	21	12	9	7	-	-	1	2	
伝染性紅斑	6	-	1	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	
突発性発疹	14	-	8	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	119	-	14	43	27	8	4	8	4	2	2	3	3	-	1
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

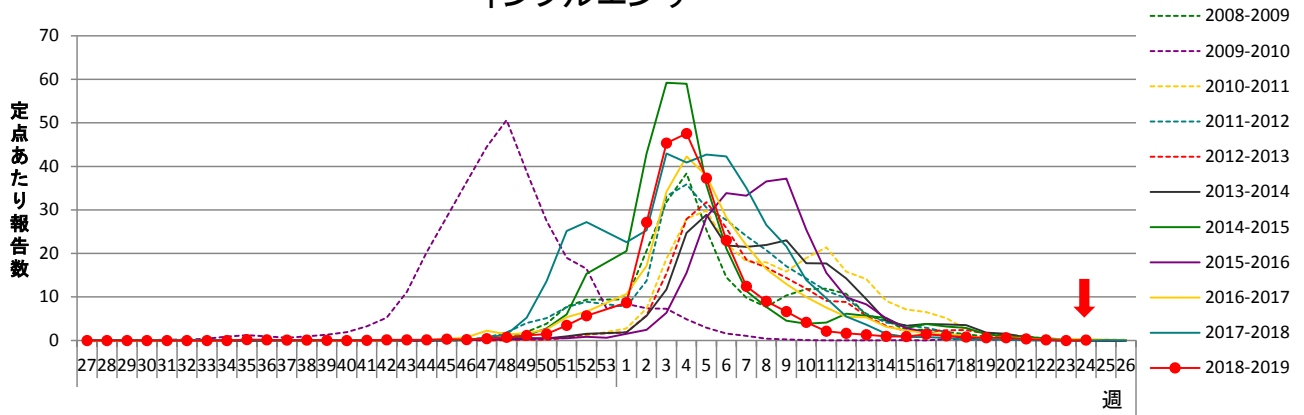
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

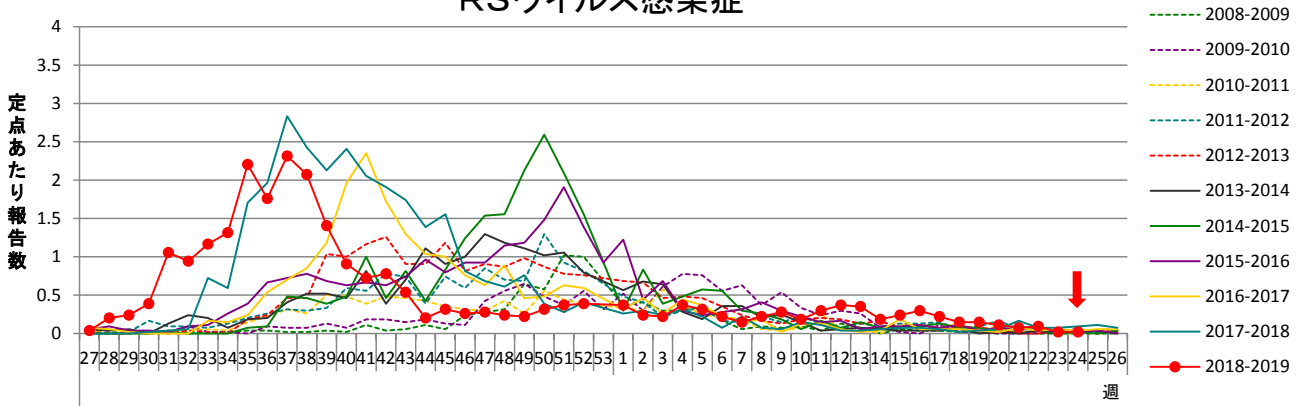
2019年 24週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	153	337	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	16	腸管出血性大腸菌感染症	6	21	70	
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	2	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	1	1	2	
	デング熱	-	2	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	1	5	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	20	83	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	6	15	ウイルス性肝炎	1	6	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	15	26
		急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	3	急性脳炎	-	8	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	14	後天性免疫不全症候群	-	4	18	
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	
侵襲性肺炎球菌感染症		-	24	45	水痘(入院例に限る。)	-	4	3	先天性風しん症候群	-	-	-	
梅毒		-	65	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	2	2	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	5	122	187	
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	

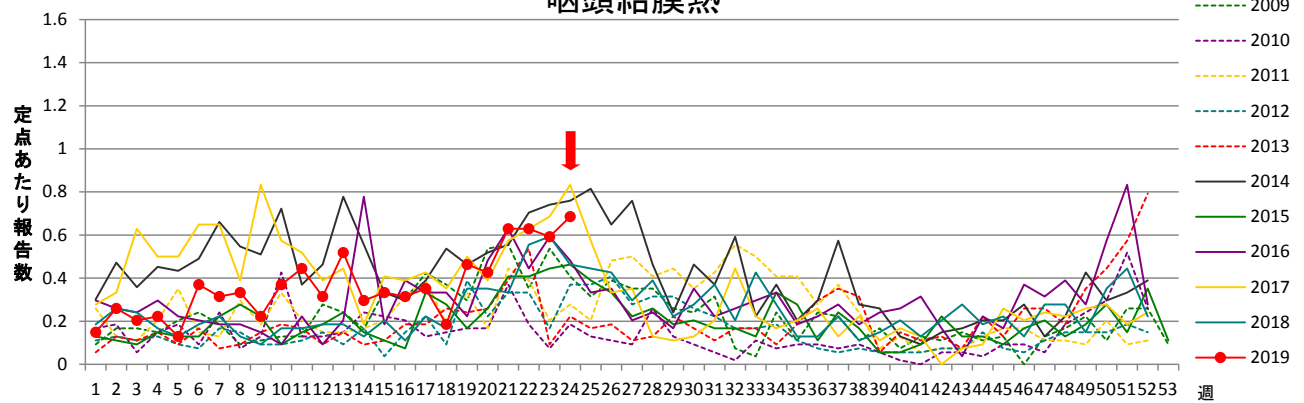
インフルエンザ



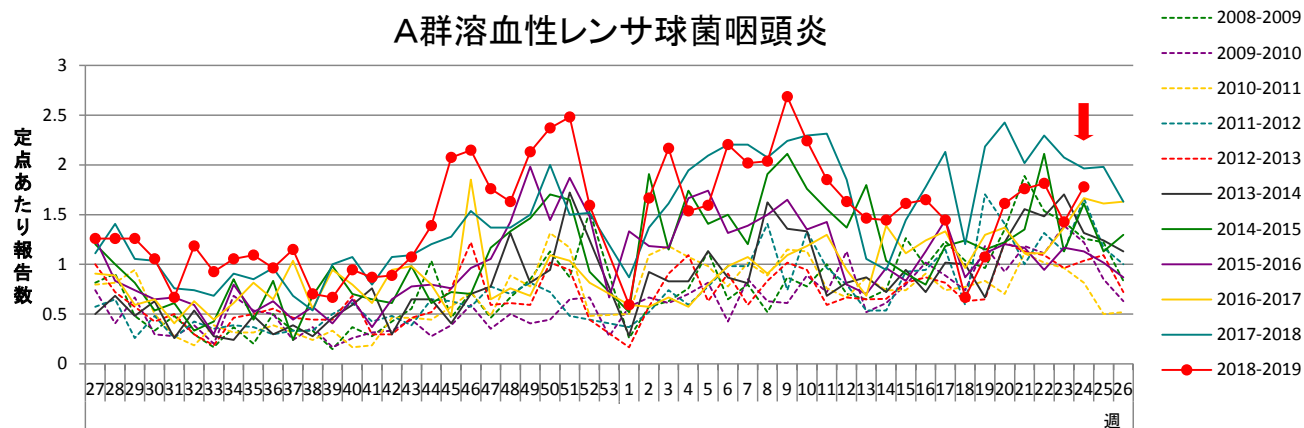
RSウイルス感染症



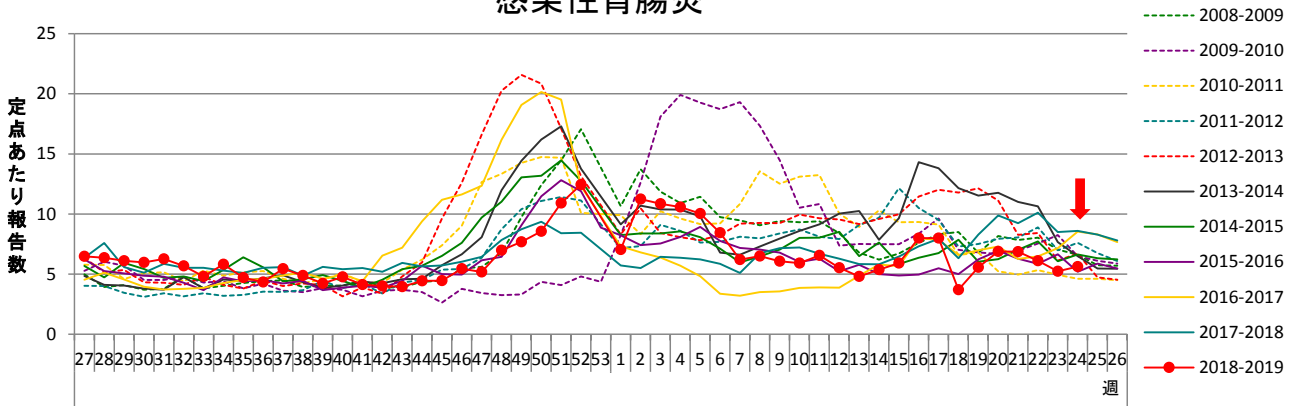
咽頭結膜熱



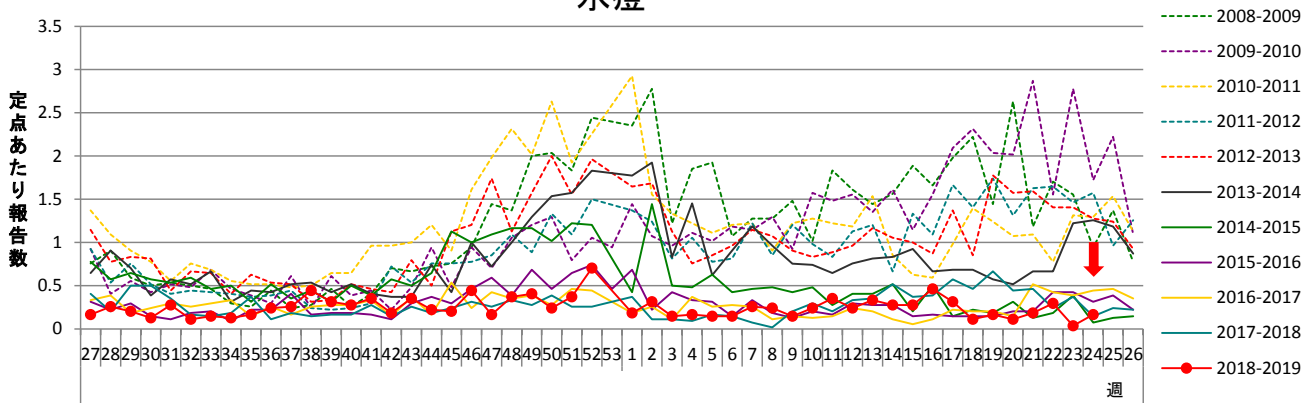
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



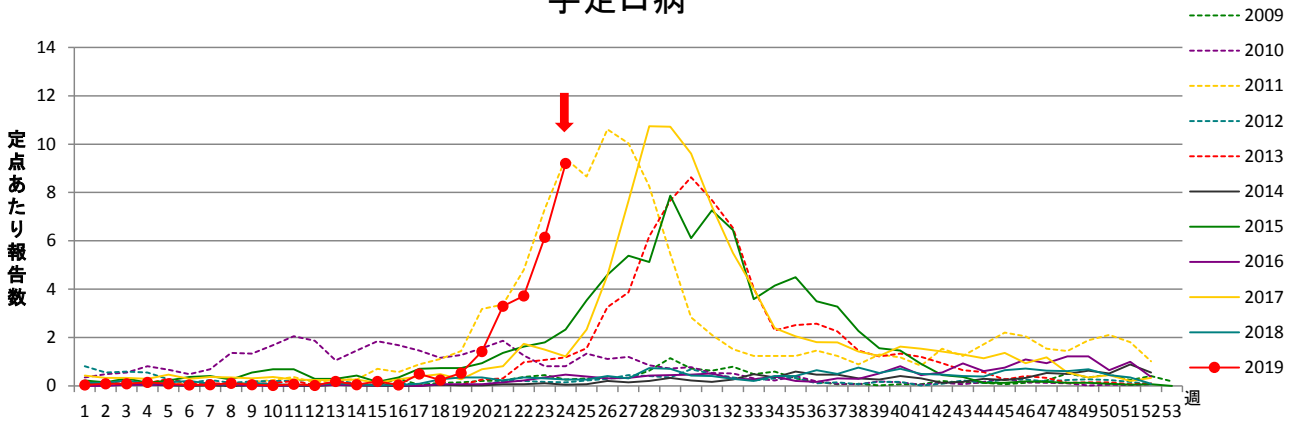
感染性胃腸炎



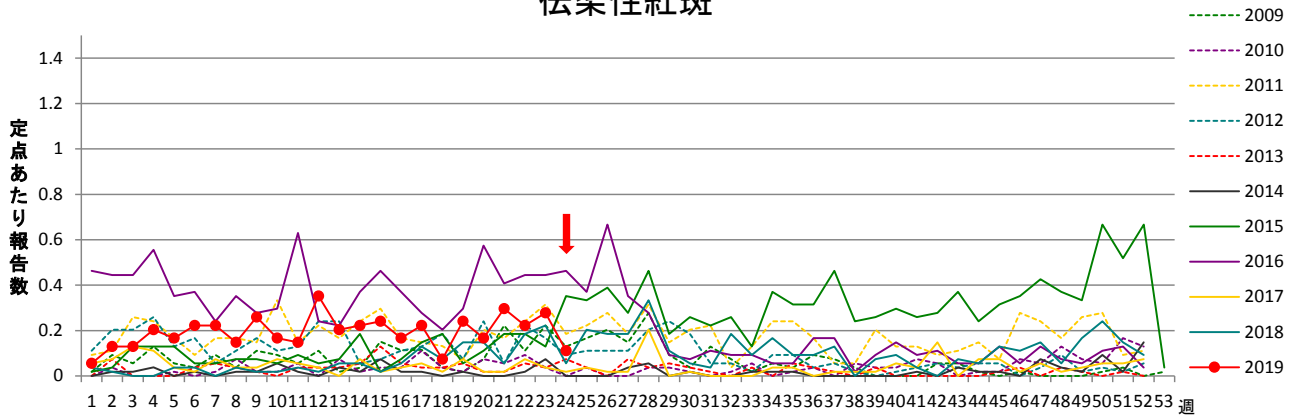
水痘



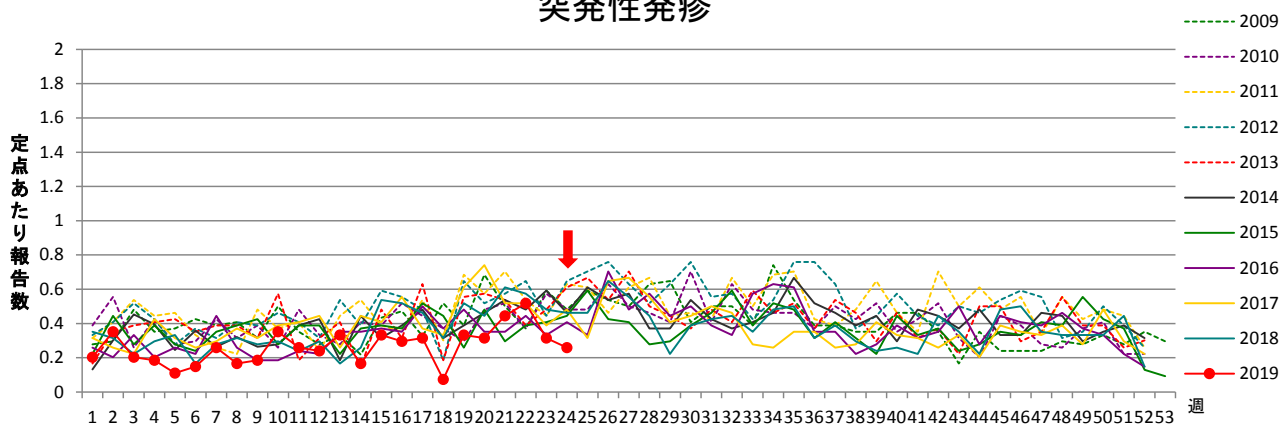
手足口病



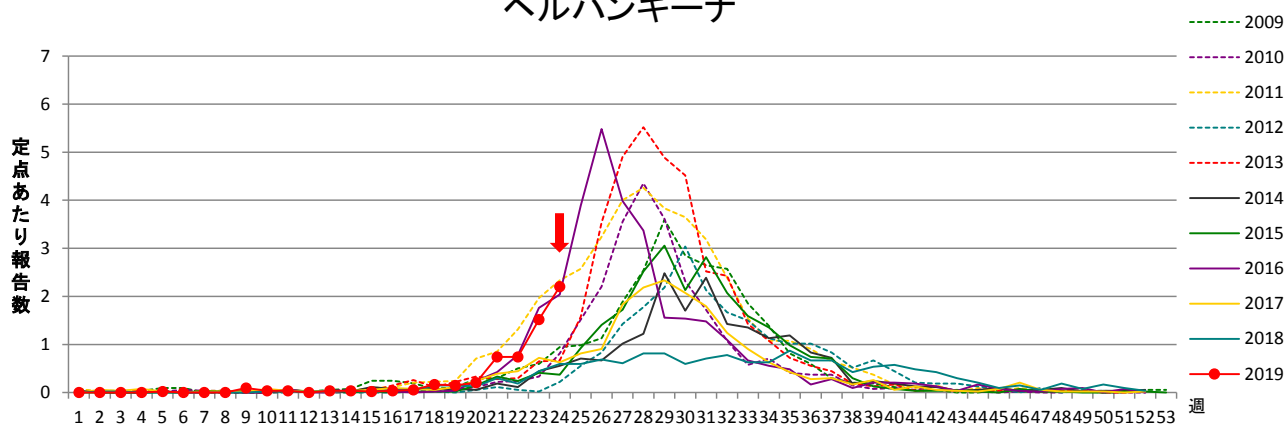
伝染性紅斑



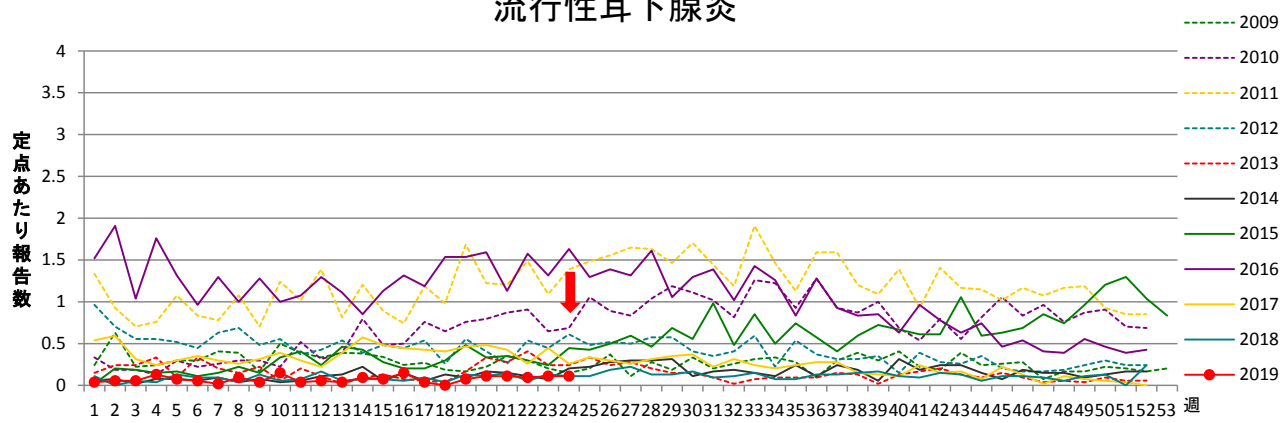
突発性発疹



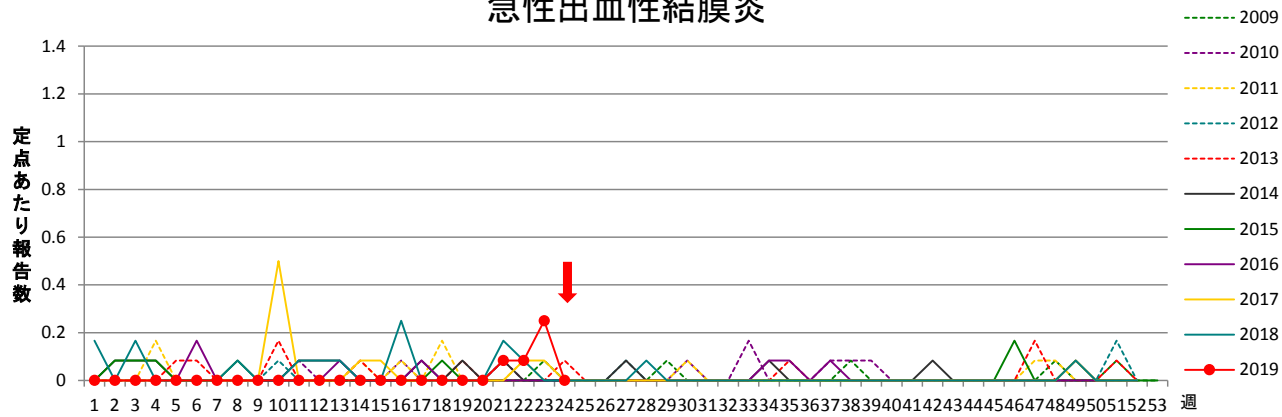
ヘルパンギーナ



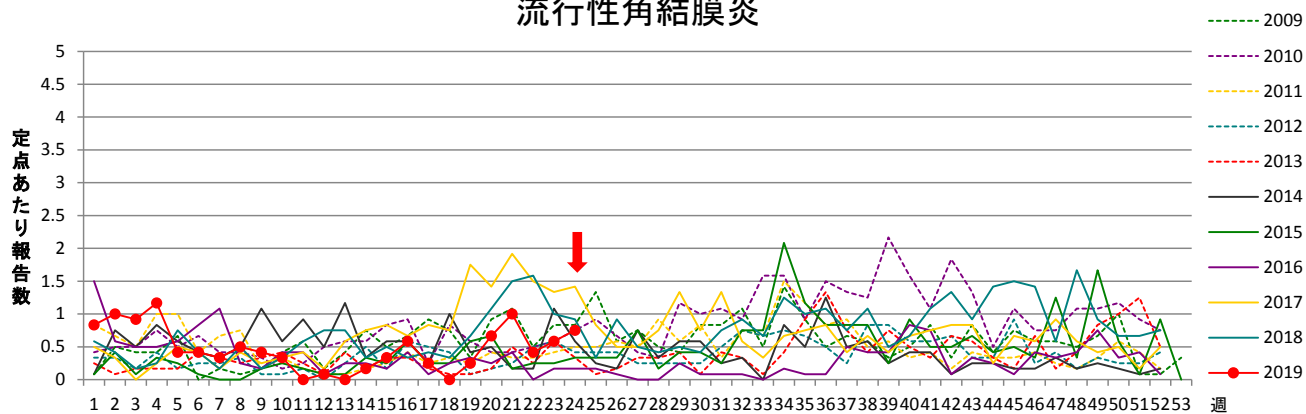
流行性耳下腺炎



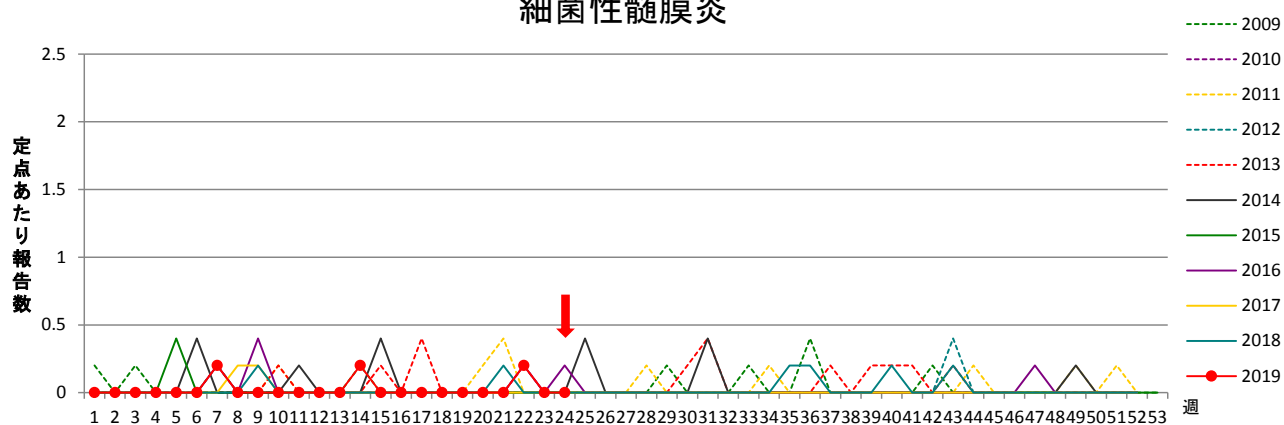
急性出血性結膜炎



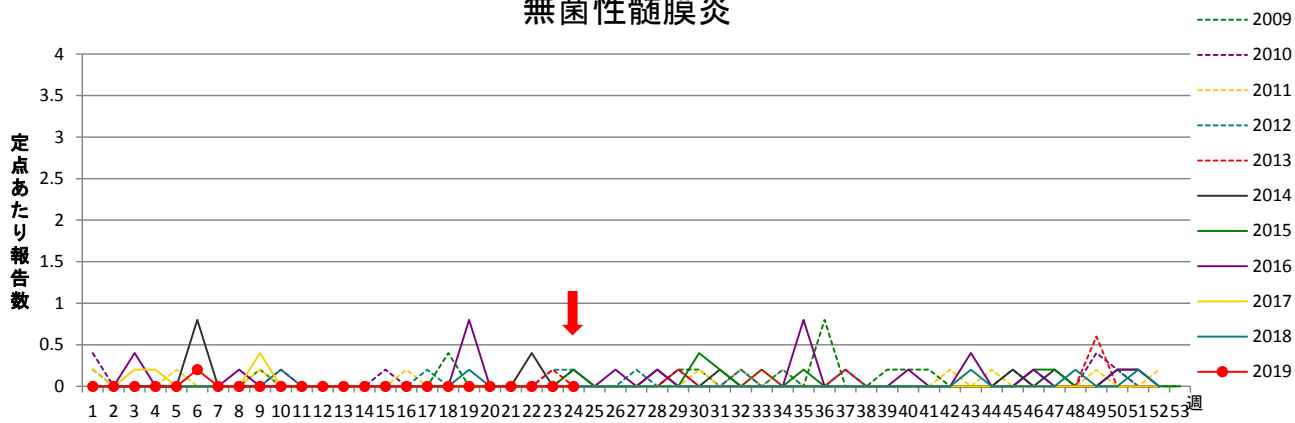
流行性角結膜炎



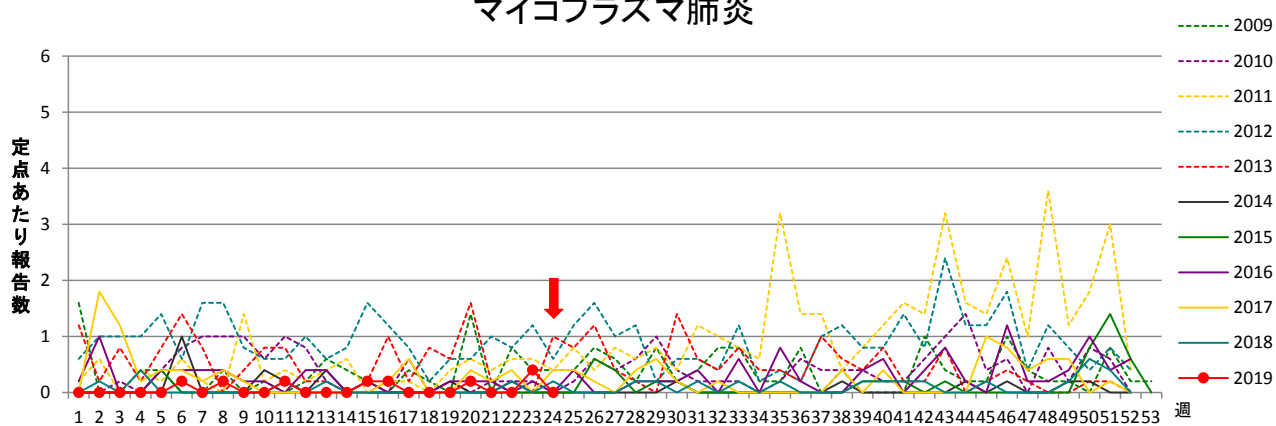
細菌性髄膜炎



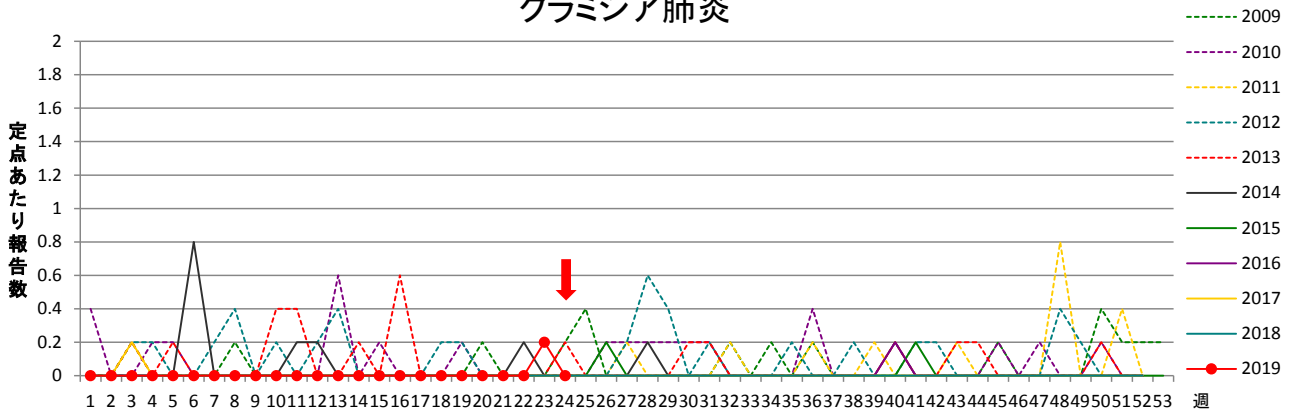
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

